

第2回 大石田・横山地区かわまちづくり協議会

令和7年8月28日(木)午後5時30分
大石田町役場 大会議室

1)これまでの経過

- ・第1回かわまちづくり協議会の開催
- ・水辺で乾杯の開催

1) これまでの経過



	大石田・横山地区かわまちづくり計画		
令和5年度 (1年次)	11月 12月 2月	第1回かわまち勉強会（町職員対象） 考える会（計3回開催） 第1回かわまちワークショップ（町民対象） 「大石田町・最上川の“好きなところ”“やってみたいこと”」	17名参加 18名参加 37名参加
令和6年度 (2年次)	6月 7月 8月 11月	第2回かわまちワークショップ（町民対象） 「かわとまちをつなぐ“具体的なアイデア”を考えよう！」 第3回かわまちワークショップ事前勉強会（小学4年生） 水辺で乾杯！in最上川開催（町民対象） 第3回かわまちワークショップ（小学4年生） 第4回かわまちワークショップ（中学1年生） 「最上川で“こんなこと”をしてみたい」 ※ワークショップ実施結果の取りまとめ 基本方針、ハードソフト施策の事務局案の検討 協議会委員の選定、スケジュールの見直し 大石田大橋周辺整備計画検討業務発注	36名参加 44名参加 50名参加 43名参加 38名参加
	1月	第1回かわまち協議会 ①かわまちづくり支援制度について、②かわまちづくりの方針について ③今後のスケジュールについて	
令和7年度 (3年次)	7月	水辺で乾杯2025～おおいしだ夜市～開催	約300名参加

1) 第1回かわまちづくり協議会



【会議名】

『第1回 大石田・横山地区
かわまちづくり協議会』

【日時】

令和7年1月27日(月)
18時00分～19時35分

【会場】

大石田町役場3階「大会議室」

【事務局】

大石田町建設課

【協議会開催状況】



【協議会委員】（敬称略）

- 会 長
加藤 優一（東北芸術工科大学 講師）
- 会長代理
佐藤 里美（文化財保護審議会 会長）
- 委 員
小内 信幸（区長会連絡協議会 会長）
鮎川 ゆき（商工会青年部 部長）
佐藤 美保子（社会福祉協議会 事務局次長）
高橋 康彦（そば街道振興会 副会長）
芳賀 清（観光協会 会長）
柏倉 智也（小中学校PTA連合会 会長）
阿部 慎一郎（地域おこし協力隊）

【アドバイザー】

- 国土交通省 新庄河川事務所 工務第一課長
- 山形県 北村山道路計画課長
- 北村山河川砂防課長

【東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科 加藤講師(座長による講話内容抜粋)】

まちづくりを取り組むうえで必要なポイント(①目的を明確にする、②実現に向けた体制を作る、③プレイヤーを計画段階から巻き込む)を押さえ、かわまちづくり事業を進めていきたい。**単体だと魅力が足りない施設でも周辺施設と連携することで魅力が高めることができる。**地域資源を組み込みながら、魅力的な場所を作っていくことが求められる。大石田町の環境と向き合いながら、**豊かな暮らしを作っていくという視点**でこの協議会を進めていきたい。

【主な意見】

協議会の冒頭には庄司町長より、「**最上川との共生により地域の魅力を創造し、住みよいまち、観光に訪れたいまち**」を作り上げるといふかわまちづくりの目指すべき姿が示されました。委員の方からは、**大石田の舟運文化を象徴する「蔵」の活用**や、住民自らが「自分事」として参画できる仕組みについて提案されました。そのほか、少子高齢化という社会全体の課題を踏まえ、将来を見据えた計画とすることが必要など、活発な議論が交わされました。

1) 水辺で乾杯2025 ～おいしだ夜市～



【イベント名】
水辺で乾杯2025～おいしだ夜市～

【日時】
令和7年7月6日(日)
15時00分～21時00分

【会場】
黒滝橋周辺大石田堤防

【開催主旨】
かわまちづくり事業のプレイベントとして、河川空間を活かしたイベントを開催し、**今後のかわまちづくりへの機運醸成、整備後の活用イメージの共通認識の形成を図る。**

【イベントの様子】



堤防天端(河川空間)の利活用
(子どもの体験エリア)



町長トークin水辺
(かわまちづくりについて)

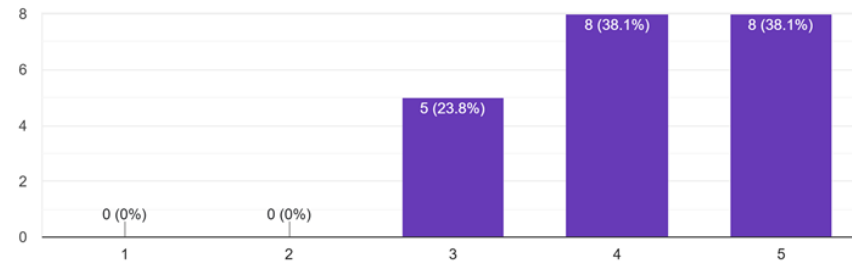


7時7分水辺で乾杯

【来場者アンケート結果】

「水辺で乾杯2025」について、満足度を教えてください。
21件の回答

満足度平均 (4.14pt)



【来場者の意見(抜粋)】

- ・ イベントがなくなる中で、**新しい事にはどんどん取り組んで欲しい。**
- ・ **町長自らかわまちづくりについて、お話しされていたのが印象的だった。**
- ・ **大変楽しかったので、来年も続けてほしい。**

令和7年7月15日(火) 山形新聞 10 面

水辺に集って 乾杯！

流域にぎわい
創出イベント

大石田

大石田町民が
最上川の水辺に

集い、地域の魅力を再発見
するイベント「水辺で乾杯」
が6日、同町の黒滝橋周辺
で開かれ、多彩なアトラク

ションや体験を楽しんだ。
2020年の「令和2年
7月豪雨」をきっかけに、
国などによる最上川の大規
模な治水事業が進められて
おり、町中心部では川幅を
広げ、大石田大橋の架け替

え工事が予定されている。
流域のにぎわい創出を目指
すかわまちづくり事業の一
環で町が催しを企画した。

この日は町内の園児によ
るダンスパフォーマンスや
民謡ライブ、昔語りなどが
披露され、サウナやデイキ
ャンプといった体験企画も
用意された。七夕にちなみ、
午後7時7分に来場者で一



斉に乾杯をコ
ール写真。
コップやグラ
スを重ね、会
場には笑顔が
広がった。家
族で参加した
同町豊田の農
業草刈一将さ
ん(43)は「川
辺でみんなだ
お酒を飲んで
り話したりす
るのは気持ち
いい。毎年の
恒例行事にな
ればうれし
い」と期待し
た。

(木村敏郎)

1)かわまちづくり方針について

- ・基本テーマ(案)及び基本方針(案)
- ・かわまちづくり方策(案)

2)ハード・ソフト施策検討方針について

- ・ハード整備検討方針(案)
- ・ソフト施策検討方針(案)

3)今後の進め方について

- ・令和7年度スケジュール
- ・先進地視察研修

1) かわまちづくり方針について



大石田・横山地区かわまちづくりの基本テーマ(案)及び基本方針(案)の設定にあたり、令和6年度に開催した第2回・第3回・第4回のワークショップ結果を基にキーワードを抽出。

第2回WS結果

- 現状としては、最上川舟運の歴史・文化のほか、最上川の緑豊かな自然・景色、そば・スイカなどの食文化に関する意見が多かった。町民の方々の「大石田町」への郷土愛とともに、「最上川に育まれた」、「最上川とともに生きる」または「最上川の歴史・文化を継承する」といった思いが強かった。
- 将来については、観光施設やレクリエーション、アウトドアが楽しめる場所がほしい、または町内外との交流の場・拠点になってほしいと望んでいる意見が多かった。町民の方々の「人々が行き交う」または「人々が交流する」といった思いが強かった。

第3回・第4回WS結果

- 小学4年生の「今やってみたいこと」は、川遊びや釣り、雪のイベント、星空観察など、最上川または大石田町の緑豊かな自然の中で遊ぶ・楽しむことに関する意見が多かった。また、そばやラーメン、すいか、だんごなど大石田町の食文化に関する意見も多かった。
- 中学1年生の「今やってみたいこと」は、バレーボール大会やマラソン大会などスポーツイベントに関する意見が多かった。また、バッティングセンターや公園などレクリエーション施設と、室内テーマパークなど観光施設に関する興味が高かった。また、「将来やってみたいこと」は、みんなが楽しく過ごせる場所・施設やショッピングセンターなど日々の暮らしに関する意見と、子どもが住みやすい町など大石田町への思い・願いに関する意見が増えた。

WS結果のキーワード



- 最上川、大石田町といった固有名詞、最上川舟運の歴史・文化、そばなどの食文化、最上川の緑豊かな自然・景色が伝わる言葉を盛り込む。また、人が行き交う・人々が交流する、アウトドア・レクリエーション施設など遊び場（賑わいの場所）がほしいといった思いを盛り込む。

1) 基本テーマ(案)及び基本方針(案)

抽出されたキーワードを基に、かわまちづくり計画の軸となるかわまちづくりの基本テーマ案と3つのコンセプトによる基本方針案を検討。

〈かわまちづくりの基本テーマ(案)〉

**最上川に育まれた自然・歴史・文化を未来に引き継ぐ、
賑わいある大石田のかわまちづくり**

〈かわまちづくりの基本方針(案)〉

1. 【安全・安心】

憩い・安らぎが感じられる場となる水辺づくり

2. 【自然・歴史・文化】

四季折々の営みを発信して最上川の豊かな文化を伝えるかわまちづくり

3. 【観光・交流】

“まち”も“かわ”も楽しめる町内外の人々が交流するかわまちづくり

1) かわまちづくり方策(案)



かわまちづくりの基本テーマ案及び基本方針案を踏まえ、ハード・ソフト施策検討の指針とするかわまちづくり方策案を設定。

コンセプト	課題	方策(案)
安心・安全	1-1.堤防整備による安全性の確保	堤防整備による安全性の確保と高水敷の活用
	1-2. 高水敷へのアクセス確保	堤防から高水敷へ行き来しやすいアクセスルートの検討
	1-3.身近に感じられる水辺	水辺を身近に感じられる空間、水辺に近づきやすい場所の検討
自然・歴史・文化	2-1.舟役所跡や特殊堤の活用	歴史的資源である舟役所跡や特殊堤の復元・活用
	2-2.自然を体験できる取り組み	自然を満喫できる体験の提供
	2-3.緑豊かな景観への配慮	緑豊かな景観に配慮した河川空間やまち並みの整備
観光・交流	3-1.広域的な交流拠点としての他都市等との連携	最上川の交流拠点として流域内外の自治体との連携 周辺施設との連携による賑わいの創出
	3-2.来訪者の受け入れ環境の向上	まちから川へ人を誘導する取り組み 来訪者を受け入れるためのアクセスルート・駐車場等
	3-3.若年層や子育て世代を呼び込む施策	水辺を活用した若年層や子育て世代をターゲットとしたイベント開催などの取り組み
	3-4.地域の魅力の発信・PR	地域資源を活用した魅力やかわまちづくりの取り組み、イベント情報等の発信・PR

2) ハード・ソフト施策検討方針について

第2回WSの結果を基に、舟役所大門跡を含む「歴史・文化ゾーン」、下河原公園を中心とした「レクリエーション・安らぎゾーン」及び、花火大会の観覧スポットである「アウトドア・賑わいゾーン」の3つのエリアにゾーニングし、ハード検討方針(案)を検討。

現時点の検討では、WSを踏まえた最大限の整備メニューであることから、今後の検討方針として、ニーズ調査等を実施し、優先順位を明確にしたうえで、整備メニューの絞り込みを図る。

大石田・横山地区全体



出典：地理院地図HPより作成

おいしだ

歴史・文化ゾーン

- 当該ゾーンは、H7～8年度に「大石田特殊堤修景事業」で整備済された箇所であり、階段護岸、船着場、散策路、白壁等が整備されている。しかし、現在、水辺は植生が繁茂し、水辺に近づけず、親水護岸等はほとんど利用されていない。
- 「大石田特殊堤修景事業」による既存施設を有効活用し、現在利用されていない施設周辺を利用しやすく再整備を行う。
 - 臈気川下流部の親水護岸周辺を水辺に近づきやすく再整備→子どもたちが水遊びを楽しめる場所へ改善
 - 臈気川合流点付近の既設の船着場、スロープを利用しやすく再整備→階段護岸・船着場岸壁の改築
 - 舟役所跡大門の船着場付近を再整備
 - 水辺に近づきやすくするように散策路（河川用管理通路）を整備→維持管理を考慮



2) ハード整備検討方針(案)

水辺空間整備計画 (ハード) 検討方針 (案)

レクリエーション・安らぎゾーン

- 当該ゾーンは、下河原公園であり、高水敷は整地されている。現在、水辺は植生が繁茂し、水辺に近づけないうえ、公園から水辺は見えない。河川空間利用調査では、水辺の利用はなく、散歩やジョギング等に利用されている。
- 下河原公園の現在の施設配置を大きく変更せずに、イベントやキャンプ、BBQなど、アウトドアやレクリエーションが楽しめる場所として整備する。
 - 水辺に近づきやすくなるように、また水辺の景色を楽しめるように散策路（河川管理用道路）を整備
 - 水辺近くの荒れ地を整地し、水辺の景色を楽しめるようキャンプ場へ整備
 - 子どもが水遊びできるように、中洲付近の水深が浅い場所に親水護岸を整備しカヌーやSUPが楽しめる場所を整備
 - 多くの人が集まる場所として水洗トイレや休憩施設、公園管理棟となる施設を整備→堤防側帯盛土して基盤整備



2) ハード整備検討方針(案)

水辺空間整備計画（ハード）検討方針（案）

アウトドア・賑わいゾーン

- 当該ゾーンは、花火大会の観覧席となる階段護岸を起点とした場所であり、現在利用されていない下流側の河川敷を新たに整地して利用する場所である。そのため、上流側は堤防の川表・川裏に坂路はあるが、下流側には堤防から河川敷へのアクセラルートがない。なお、距離標（58.2k～58.4k）は「河川敷地の民間等活用に資するポテンシャルリスト」掲載箇所
- 坂路が整備されている箇所より下流側の高水敷を整正して利用範囲を拡大するとともに、「RIVASITE」制度を活用して、新たな賑わいの場を創出する整備を行う。
 - 水辺に近づきやすくなるように、また水辺の景色を楽しめるように散策路（河川管理用道路）を整備
 - 河川敷を広範囲に整地し、イベントやキャンプ、BBQ等が楽しめるような場所を整備→キャンプ場やBBQ場は水辺に配置
 - 子どもが水遊びできるように、水深が浅い場所に親水護岸を整備し、カヌーやSUPが楽しめる場所へ整備
 - 多くの人が集まる場所として水洗トイレや休憩施設、各施設の管理棟となる施設を整備→堤防側帯を盛土して基盤整備



2) ソフト施策検討方針(案)

第1回WSの結果を基に、想定されるソフト施策を検討。

今年度は、河川空間を利活用したイベントの試行として、「水辺で乾杯2025～おおいだ夜市～」を開催。当面は、町既存事業のリバイス(更なる河川空間の利活用)を図りながら、民間事業者と連携した事業スキームの構築を検討する。

水辺利活用計画(ソフト) 検討方針(案)

ソフト施策メニュー

- 過年度の第1回WSの結果から、大石田町または民間事業者等において想定されるソフト施策として、
 - ① 最上川における環境維持や環境学習の取り組み、② 各種イベントの開催が考えられる。
- 各種イベントは、大石田町の地域特性を活かした次のようなイベントが考えられる。
 - ① 最上川の豊かな自然を活用したイベント
 - ② 歴史的な地域資源を活用したイベント
 - ③ 大石田町の食文化を活かしたイベント
 - ④ 河川敷地を利活用したイベント → **今年度、水辺で乾杯を試験的に開催**
- これらのイベント開催等を円滑に進めるために、社会実験等を実施し、都市・地域再生等利用区域の指定を目指すことが考えられる。

大石田町・民間事業者等において想定されるソフト施策

想定されるイベント	イベント内容
最上川の豊かな自然を活用したイベント	・ 最上川の風景の映えスポットや撮影大会等のイベント ・ 四季折々の最上川の魅力を感じることができるイベント（春は花見や鯉のぼりの設置、夏は水遊びやカヌー、秋は芋煮会が多数）。 ・ かまくら、かまくらホテル・バー、スノーモービル、クロスカントリーなど雪を活用したイベント
歴史的な地域資源を活用したイベント	・ 特殊堤白壁を活用したライトアップやプロジェクションマッピング等のイベント ・ 舟運や特殊堤防白壁、舟役所等の歴史的な地域資源を活用したイベント ・ 特殊堤の下での船曳体験や舟下りなど最上川舟運の歴史に関する体験型イベント
大石田町の食文化を活かしたイベント	・ そば打ち体験、グルメイベント、だんごの舟渡し等の食文化に関する体験型イベント
河川敷地を利活用したイベント	・ 下河原公園やさくらロードを活用したイベント（スポーツ大会、花見） ・ 最上川花火大会やウォーキング、コンサートやダンス、BBQ、ドローン撮影、キッチンカー、カヌー大会、大型灯ろう流し、スタンプラリー等の河川敷や水上を活用した様々なイベント ・ 月替わりそば屋やレンタル店舗など複数の民間事業者が参加するイベント ・ ビアガーデン、オクトーバーフェスト、船上ビアガーデンなど水辺でお酒が飲めるイベント

3) 今後の進め方について



	大石田・横山地区かわまちづくり計画		
令和7年度 (3年次)	8月 第2回かわまち協議会 ①かわまちづくり方針について ②ハード・ソフト施策検討方針について ②今後の進め方について 1月 第4回内部検討会議（役場課長会） ①維持管理計画について、②かわまちづくり計画書（案）について 2月 第3回かわまち協議会 ①第2回協議会における意見等への対応、②維持管理計画について ③かわまちづくり計画書（案）について		年次目標 ・かわまちづくり計画書（案）の作成 ※民間事業者等の参画検討
令和8年度 (4年次)	5月 地元説明会 経過及びスケジュール説明 ※かわまちづくり計画書（案）の公表、パブリックコメントの受付 7月 第5回内部検討会議（役場課長会） ①かわまちづくり計画書（案）の修正について 第4回かわまち協議会 ①第3回協議会における意見等への対応 ②かわまちづくり計画書（案）の修正について 9月 かわまちづくり事業基本設計業務発注 11月 かわまちづくり計画登録事前審査		年次目標 ・かわまちづくり計画書（案）の作成 ・基本設計の作成（プロポーザル方式）
令和9年度 (5年次)	4月 かわまちづくり計画募集開始 8月 かわまちづくり計画登録認定 9月 第6回内部検討会議（役場課長会） ①かわまちづくり計画書の提出について ②今後のスケジュール等について 第5回かわまち協議会 ①第4回協議会における意見等への対応 ②かわまちづくり計画書の提出について ③今後のスケジュール等について 10月 かわまちづくり事業実施設計業務発注		年次目標 ・かわまちづくり計画登録認定
令和10年度 (6年次)	4月 かわまちづくり事業開始 かわまちづくり事業実施設計 （R11以降）かわまちづくり事業工事		年次目標 ・実施設計の作成

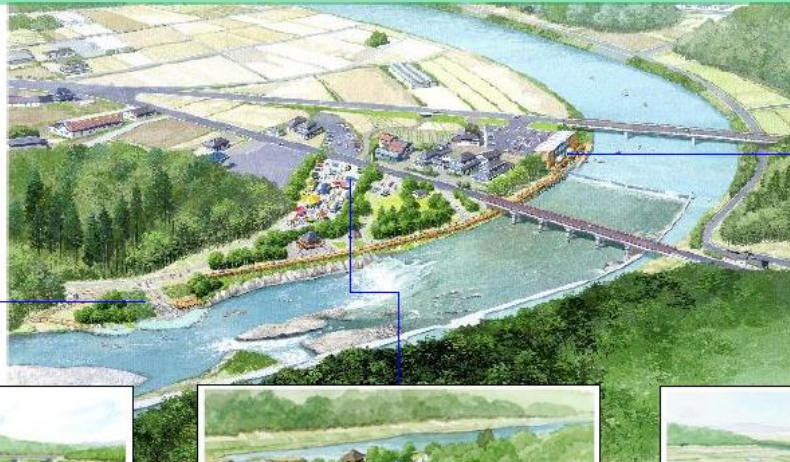
3) 先進地視察研修 (10月中旬～11月中旬)

【玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり(令和2年登録)】

福島県玉川村では、自然と歴史のある乙字ヶ滝周辺地域に立ち寄る機会(楽しみ)を増やし、滞在時間を延ばせる空間づくりを行い、「賑わいと交流の場となる空間」を地域住民、民間事業者、村等が連携を図りながら、親水拠点の形成、交流人口の拡大を図っている。

玉川村が考えているまちづくりの計画・方針(目標)との一体性

<利活用内容>



■親水護岸周辺

- ・ 自然景観や歴史的な乙字橋の観賞
- ・ 管理用通路の広場的活用
- ・ 安全な写真撮影
- ・ 休憩(散策、サイクリング利用者等)
- ・ カヌー等(坂路利用)
- ・ オープンカフェ等の利用(乙字ヶ滝広場購入品の飲食等)



■乙字ヶ滝広場(仮称)

- ・ キッチンカーなどによる飲食販売・購入・広場等での飲食
- ・ 物品販売・購入
- ・ 超小型電気自動車の立寄り休憩利用
- ・ サイクリング休憩、自転車のレンタル利用
- ・ 乙字ヶ滝の写真や関連した俳句の展示鑑賞
- ・ イベント、季節行事の開催



■複合型水辺施設(仮称)

- ・ 阿武隈川を望みながらの飲食・休憩(複合施設内)
- ・ カヌー利用(坂路や建物の利用)
- ・ カヌーの保管・貸出
- ・ カヌー教室
- ・ 村内の観光情報提供
- ・ 体験工房

■管理用通路

- ・ 地区内の複合型水辺施設(仮称)、乙字ヶ滝公園、展望広場(仮称)等を結び、地区の周遊利用を図る
- ・ 河川巡視利用(滝や堰等における、流木等流下障害物等の巡視)